

令和4事業年度 北方領土問題対策協会評議員会 議事要旨

1. 日 時

令和5年3月20日(月) 15:00～16:30

2. 場 所

秋葉原UDXカンファレンス6階「Room E」

3. 出席者

<評議員>

河内評議員、吉武評議員、飯野評議員、岡本評議員

<評議員：オンライン出席>

庄林評議員、楠評議員、小倉評議員、福原評議員、脇評議員、河田評議員、
野口評議員、濱松評議員

<職員>

諸星理事長、菅専務理事、鳥山監事、越前監事、鶴田事務局長、
押切総務課長、佐藤上席専門官、渡边上席専門官、近藤上席専門官

4. 議題

(1) 議長の選任について

(2) 北方領土問題対策協会業務説明について

① 令和4年度 業務報告について

一般業務関係 説明：佐藤上席専門官
渡边上席専門官

貸付関係 説明：近藤上席専門官

② 第5期(令和5年度～令和9年度)

中期目標及び中期計画(案)について

説明：押切総務課長

③ 令和5年度 年度計画(案)について

説明：押切総務課長

④ 令和5年度 事業計画(案)について

一般業務関係 説明：佐藤上席専門官

(3) その他

5. 会議概要

(1) 諸星理事長冒頭挨拶

(2) 議長の選任

満場一致で吉武評議員が議長に選任

(3) 議題についての説明

(4) 質疑概要

以下のとおり。

【河内評議員】

中期目標に記載のある返還要求運動の推進について、取り組み事例の情報収集・発信の強化、全国各地の取り組みの見える化、地域間の情報共有・連携を、強力に進めていただきたい。

「エリカちゃん」の SNS では、各都道府県の取り組みについても、非常にタイムリーに掲載されており、啓発に大きな役割を果たしているように思う。

一方で、北対協のホームページには、都道府県民会議の活動内容、啓発事業の状況については掲載がない。例えば、啓発事業の実施結果の中でも、北対協の直轄事業であるゼミナールの結果は掲載されているが、地域との共催事業である現地視察事業、青少年育成事業については掲載されていない。都道府県民会議あるいは都道府県の取り組みについても、掲載を充実させる方向で検討いただきたい。

【渡边上席専門官】

各県民会議で実施した事業については、各々で運営しているホームページで掲載いただいております、協会ホームページにはそれらのリンク集を掲載している状況である。

県民会議の事業についても広くアピールすることは重要だと考えているので、どのような形で取り組むことができるか検討したい。

【岡本評議員】

資料1の10ページに、「えとぴりか」の試験運航について載っているが、「えとぴりか」は普段は根室港に停泊しているのか。

【佐藤上席専門官】

普段は広島の呉の造船所のドックに入って、メンテナンス等を行っている。

【岡本評議員】

例年、子供たちが現地視察に行っているが、その際に子供たちに「えとぴりか」を見せることは可能か。

【佐藤上席専門官】

令和5年度も交流事業ができるかどうかは分からない状況であるため、その際の代替事業についても検討を行っているところ。子供たちの見学の実施も、「えとぴりか」の利活用の一案となりうると考えている。

【渡边上席専門官】

昨年、長崎県民会議が青少年現地視察事業を根室で実施した際に、洋上慰霊に出発するときの船を見学した実績がある。その際、島には行けないが、こういった形で洋上慰霊をしているのだという、通常の現地視察とは違った切り口から、子供たちに北方領土問題を認識してもらうことができた。

年内に25県が現地視察で根室に行くことを予定しており、必ずしも全25県に対し可能かは分からないが、機会があれば見学は可能かと思う。

【岡本評議員】

船を県民会議に見せたり、教育者会議が利用したりという機会を設けることで、子供たちのより深い学びにつながる。これから将来、子供たちへの啓発がより必要となってくるので、是非協力を願いたい。

【脇評議員】

昨年、一昨年と、この評議員会は書面での開催となっており、意見照会という形で実施していたが、その結果として意見はあったのか。

また、本日の評議員会は会場出席のほかにオンライン出席という形式を取っ

ているが、その線引きをどのようにしたのか、お知らせ願いたい。

オンラインで参加していて、今回のこの評議員会の雰囲気、なかなか伝わってこなかった。説明はペーパーがあるから理解できるが、説明者、発言者が映像としてアップになっていないので、何らかの工夫が必要ではないか。

【鶴田事務局長】

過去2年、書面開催ということで評議員の皆様には照会をかけたところ、それぞれの立場から意見をいただいた。SNS を活用した情報発信をしっかりせよという意見、元島民の方々に寄り添った事業の展開を、という意見を頂戴した。

オンラインと対面形式の併存については、今後工夫が必要だと認識している。少しでも会場の雰囲気が伝わるようにしていきたい。

また、今回の評議員会開催にあたっては、基本的には全員対面形式での参加を想定していた。ただし、元島民の方については、オンラインも可というお願いをしていたところ。案内の結果、道東の漁協の方々がオンライン希望とのことであったので、オンラインも可とした。

基本的には、状況が許せば、全員この場に集まって評議員会を開催したいというのが、一義的な我々のスタンスである。

【濱松評議員】

「えとぴりか」の回航について、昨年、長崎県民会議の方が船内の見学を実施したということであるが、タイミングが合わないと実現が難しい。YouTubeなどを活用して、例えば中学生、高校生などの若い方に船の中を案内してもらう様子を流す、といったことも北対協の中でやれば良いのではないか。

YouTube ショート動画の「エリカの起承転結」については、自身も見た。北方領土について知識のない人でも、ぱっと見てわかりやすい内容になっていると思う。「えとぴりか」の船内についても、今どういう状況で動いているのか、島へ行っていない時はどうなっているのか、皆さん関心がある部分ではないかと思うので、そういった情報発信についてもお願いしたい。

もう一点、現在 SNS で色々と発信をしているが、「いいね」をもらうだけの発信ではいけないのではないか。その後で何をしたいのか、どういう状況へ持って行きたいのか、あまり見えてこない。細かい話題については、Twitter や Facebook でも上がっているが、最終的にどういった方向へ持って行きたいのか、

もう少し具体的に分かりやすくした方が良い。書き込みの内容に対しても、何らかの形にまとめるのか、あるいは事業の参考とするのか。前を向いた活用について検討してほしい。

【佐藤上席専門官】

YouTube ショート動画について、分かりやすいとの評価に感謝申し上げます。

「えとぴりか」が根室回航以外でどういった活動をしているのか、紹介することも可能であるかと思うので、検討していきたい。

【渡边上席専門官】

2 点目のご質問については、非常に大切なポイントだと思っている。知るだけではなくて、知ったことをいかに深めて関心を持ち続けて行くのか、あるいは自発的な発信や、実際の事業への参加につなげるのか。ただ、一般の方は北方領土問題を知らない方が非常に多いため、まずは入り口としてしっかり知ってもらうことが大切だと思う。

また、いかに関心を持ち続けるのかということについて、本日午前で開催した役員会において、持続可能な啓発について考えるべきという提案があった。SNS の投稿の工夫に加え、持続可能な啓発事業とはどういったものか、皆様のお知恵をいただいで考えていきたい。

以上